

東日本大震災復興支援

生活支援相談員ニュースレター～VOL. 28～

平成30年4月発行

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7532

～災害公営住宅に関する動き～

★ 県営八木沢第2アパート（宮古市）で「焼きそばプロジェクト」開催！ ★

4月22日（日）13時から県営八木沢第2アパートで、入居者交流イベント「焼きそばプロジェクト」が開催され、入居者14名が参加しました。

このイベントは入居者同士の顔合わせを兼ね、アパート内で初めて開催された交流イベントです。

開催まで、入居者の中から1年交代で選出される管理人と支援団体は、「どうすればみんなが集まるイベントになるのか」をポイントにミーティングを重ね、各世帯を訪問して直接声をかけながら、案内チラシを配布することにしました。

また、当日のお手伝いとして準備に協力できる方の呼びかけも行ったところ、男性5名、女性5名の協力がありました。



当日は、みんなで作った焼きそばを食べ、その後は自己紹介、ミニゲーム、輪投げをして住民同士の交流を深めたほか、入居者のお孫さんもゲームに加わる等、終始和やかな雰囲気のイベントになりました。

終了後は、入居者2名と宮古市社協1名で、欠席した世帯に焼きそばをおすそ分けしたところ、普段の訪問で会えない方にも会うことができ、反省会では、「お互いの顔も分かり開催して良かった」という声が上がりました。

4月から管理人となった方は、「今後は月1回を目安に交流イベントを行い、住民同士の仲をさらに深めていきたい」との思いを話していました。今後の取組も楽しみです。

【プロジェクト開催までの流れ】

宮古市社協、いわて生協、傾聴ボランティア支え愛、3.11 いわて教会ネットワーク及び本会は、これまで6回、宮古市内3つの災害公営住宅の現状と課題についてミーティングを重ねてきました。

その中で、入居率が8割程度で、自治会設立も既存自治会への加入もなく、住民の集まる機会がなかった八木沢第2アパートから、住民主体の交流イベントの取組を始めることにしました。



イベントの名称は「〇〇プロジェクト」とし、〇〇にはその都度、テーマを入れることにしました。その初めての取組が、今回開催された「焼きそばプロジェクト」です。

なお、これまでのミーティングには、本会の多職種・多機関協働支援の一環として、岩手県立大学社会福祉学部の菅野道生先生が3回参加し、助言をいただいている。

★ 船越第1団地（山田町）自治会設立に向け準備が進む船越19・20・21区 ★

船越19区・20区・21区の3つの地区で形成される「船越第1団地」自治会設立に向け準備が進んでいます。「船越第1団地」は、自力再建世帯・戸建てタイプの災害公営住宅・集合タイプの災害公営住宅から構成される地区で、全102戸の自治会となります。

【船越19区第2回顔合わせ会開催】

4月16日（月）の18時30分から、山田町船越防災センターで船越19区第2回顔合わせ会が開催され、船越19区の住民24名が参加しました。船越19区は、35区画中33区画の分譲者が決定し、24世帯が再建済です。

第2回の今回は、山田町のコミュニティ形成支援員が直接声掛けする等の工夫で、3月15日(木)に開催された第1回顔合わせ会より参加者が増え、グループに分かれての話し合いでも「ゴミステーションが小さいので大きくしたい」「雪かきは個人で行うより地区で協力してやる方がよい」「カーブミラーがほしい箇所がある」等、沢山の意見が出されました。

山田町地域コミュニティ形成アドバイザーの船戸義和氏から、「今は個人の意見でも自治会としてまとまった意見になると、自治会として町へ要望ができる。そのためにも自治会づくりは重要」との話がありました。その後、自治会設立に向けての準備委員は、住民の立候補により6名選出され、拍手が沸き起こり、良い雰囲気で閉会となりました。

なお、同様に20区と21区からも準備委員が選出されています。自治会設立委員会は、ゴールデンウィーク明けに開催される予定です。

出席団体は、山田町地域コミュニティ形成アドバイザー、岩手県建築住宅センター、山田町社協、山田町復興企画課、山田町総務課、及び本会です。

